

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
自ら学び、自ら行動する、心豊かな岩松っ子の育成	① 地域に開かれた信頼される学校運営 ② 確かな学力の定着 ③ 豊かな心と健やかな体の育成

達成度  
A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である

3 目標・評価							評価委員の 評価 (A~Dで記入)	意見や提言など	
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)			
① 地域に開かれた信頼される学校運営									
学校運営	○ 学校教育目標 □	学校教育目標、重点目標が周知されたか。	・教職員、保護者、学校評議員、地域への周知を図り、認知度90%以上をめざす。	・教職員は職員会議で、学校評議員は学校評議員会で、保護者・地域の方々は育友会総会、HP、学校便り等で説明やお知らせをする。	B	・学校評価アンケート結果を見ると、「学校は学校便りやHP、育友会総会などを通して、学校教育目標や教育方針を伝えておられますか。」という問いに対して、思う・大体思うを合わせると、95%あり、ほぼ達成していると考えられます。 ・学校便りは、1/31時点でNo19まで発行。月に2回のペースであり、回数としては良い。内容も、ICT活用、自問清掃、地域との連携の3本柱を中心に、子ども達や先生達の頑張り、保護者への啓発(朝の送り迎えなど)などを意識して記述した。 ・HPは、教育計画、学校評価、岩松寺子屋関係は、計画的にアップしたが、学校行事については、なかなかできなかった。しかし、児童玄関前の学校の取り組みや学校行事の掲示は評判が良く、カバーしてもらったと思う	・HPの充実が課題の一つ。材料さえそろえば、ICT支援員さんをお願いできるが、材料集めや選定などにさく時間がなかなかとれない。管理職以外に担当者を決めて計画的にアップしていきたい。 ・学校便りは、内容やレイアウトについて工夫の余地がある。読みたくするような内容を記述していきたい。	A	①特に学校便りは、学校教育目標、重点目標に沿った理解しやすい内容となっていて、その時々取り組みが伝わってきます。今後共に活用すべきだと思います。 ②「思う」「大体思う」が95%ありA評価とした。ただごくわずかがH27年度より減少したのが残念だ。「学校便り」はおおいに評価したい。 ③学校便りで子どもたちの学校生活が良くなりよかったです。
	○ 危機管理	児童の安全・安心が確立できたか。	・児童の事故発生を0にする。 ・学校安全計画を基に安全教育を進め、安全指導を確実に実践していく。 ・安全・安心に配慮した教育活動が実践されていると感じる保護者を割合を85%以上にする。	・実態に即した緊急時対応マニュアルの更新 ・実効性のある避難訓練を実施する。 ・毎月の安全点検を確実に実施する。	A	学校の安全教育・安全対策に86%の保護者が理解をしていただいた。また、児童の安全に対する意識も87%と高い結果が出た。 避難訓練は、全て計画通りに実施できた。避難誘導や移動の仕方などを職員や児童は理解できていて、順調だった。数年来、登下校中の不審者による声かけを想定し実施してきた。今年度は、校内への不審者侵入を想定した避難訓練が警察と協力して実施できた。	学校の取り組みは、保護者や児童に理解を得られている。計画や予定された児童の避難訓練ではなく形で行って、行動の理解や定着を図りたい。	A	①日本では、水と安全は無償だと思っていますが、これは小学生の時から学校、家庭、地域行政といったみんなで努力して培ってきたもので、特に将来に向け子どもの安全は大切だと考えます。 ②A評価としたが、「あまり思わない」が9%あるので、この辺の改善を。 ③危険マップ等もあり、集団登校で安全通学は確保できている。スマートインターチェンジ開通で交通量が多くなるのが心配。
	○ 開かれた学校づくり1	学校情報を提供できたか。	・学校の情報が分かると感じる保護者の割合が85%とする。 ・学校公開日、行事、授業参観での出席率を85%以上にする。	・学校だよりを随時発行すると共に、ホームページを着実に更新し、学校の情報を発信する。 ・学校公開や授業参観の広報を2度発信する。 ・緊急情報メールの受信率を95%以上にする。	B	学校は、学校便り、学級便り、学校ホームページ、学校公開日、授業参観などで学校の様子を伝えておられると思いますか。というアンケートで保護者の90%が開かれた学校だと回答している。参観の出席率については、学年毎に差があり目標の85%には達しなかった	情報の伝達はよく行っているようだが、参観者数の増加につながっていない。 土曜開校日を活用し、保護者と児童と共に学ぶような学習(親子情報ネット学習等)を開き、来校者数を増やしていきたい。情報伝達の手段として、学校情報メールの100%受信をめざしていきたい。	B	①学校からの各情報のうちで保護者の関心は、自分の子どものひょうかのみで、他の情報にはあまり関心を示さないのが現状のようです。 ②参観の出席率については、全体も大事であるが個々の出席率がどうなっているか。 ③携帯機器の活用で情報伝達充実ができれば良いと思う。 ④携帯・スマホ所持の保護者に対して学校情報メール受信100%はぜひとも達成してください。
	○ 開かれた学校づくり2	地域の教育力を活用した充実した体験活動ができたか。	・地域の教育力を活かして継続的に取り組んでいくことで、体験活動の成果が上がっていると感じる保護者が90%以上とする。	・総合的な学習、生活科の年間計画に地域性を活かした体験活動を位置し、活動の様子をお便りや掲示板などで発信していく。 ・水と土づくり探検事業の実施。(全学年) ・岩松寺小屋と岩松検定の実施。野菜作り(1・2年も)羊羹作り(4年)ホタルの飼育体験(5年)	A	保護者アンケートで93%とよい結果を得ることができた。体験学習の様子を掲示板や学級通信などで、家庭へ発信することもできた。岩松寺子屋の年間パスポート希望者も昨年度より増し、恒例の行事として定着してきている。どの活動も、計画的に継続して進めることができた。 ・岩松寺子屋・・・参加者も増し恒例の行事としても定着してきた。新しい企画や毎年恒例の企画とあるので、子どもたちの関心も高まっている。 ・案山子作りが総合的な学習の年間計画に位置付けることができ、時間確保や計画的に活動を進めていくことも可能になった。	・岩松検定にむけて、児童の関心や学習意欲を高める手立てを考える。 岩松寺子屋のときには、参加者に事前に「岩松読本」を貸し出して、今日の計画にかかわりのあるページを既読させたり、実際に持って参加したりできると岩松検定への意欲も高まってくるのではと思われる。	A	①小学校6年間は自分が澄んでいる地域の文化、歴史等にふれあう最高の期間だと思います。岩松寺子屋は素晴らしい企画だと思います。 ②体験活動のアンケートで「思う」「大体思う」の95%には少しびっくり。 ③地域の方たちの協力体制がよく、地域参加はこのままつづけていければよい。 ④青少年協力のものと、良くできていると思う。

② 確かな学力の定着							評価委員の 評価 (A～Dで記入)	意見や提言など		
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策			
教育活動	● 学力の向上	児童の基礎学力が定着したか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国、県学習状況テストが前年度の結果をこえ、県平均を上回る。</li> <li>・CRTの結果が全学級で前年度の結果をこえ、全国平均に近づき上回る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキルタイムを着実に実施する。(級外とのTT)</li> <li>・家庭学習の充実を図るため、家学(家庭学習)週間を学期毎に設け、学年に応じた家庭学習の時間の達成に取り組む。また、自主(自由)学習紹介コーナーを設ける。</li> <li>・育友会と連携して家庭教育講演会を開催する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～6年生の12月県調査の結果は6年生がほぼ県平均と同等であったが、他の学年はいずれの教科もやや県平均を下回る結果となった。1～3年生については、CRTの結果から、いずれの学年も全国平均をやや下回る結果となった。</li> <li>・保護者アンケートによると、「個に応じた指導やわかる授業をしているか」について「あまり思わない」「思わない」が25%あり、昨年よりわずかに増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい家庭学習習慣形成に向けて、保護者への啓発を毎学期行うことができ、学校と保護者が協力する意識ができてきた。また、壁面掲示を活用して、望ましい学習内容の啓発をすることもできた。</li> <li>・スキルタイムを計画的に実施し、すべての教員で指導にあたることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各児童の特長はいろいろですが、その可能性はすばらしいものがあると思いますこれからもご指導のほどよろしくお願ひします。</li> <li>②少しあまくB評価とした。やはり平均より下回るのは気がかりだ。しかし、これは家庭学習も非常に大事であり、保護者への継続的な啓発が必要と思う。また、保護者アンケートの25%も気にかかると。</li> <li>③学力は家庭での家学が大切だと思うので家で学習習慣を継続されることで家族の協力がより必要。</li> <li>④家学の充実には保護者の協力が不可欠であり、保護者に協力する意識が出てきたことに評価します。そして、保護者への協力要請を持続して行ってください。スキルタイムを計画通りに実施できたことは評価します。</li> </ul>	
	● 教養の向上 ● 教育の質の向上 ● 進路活用	教職員のICT活用能力が向上したか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの授業への活用を推進し、思考力、判断力、表現力を育む、学び合い学習の充実を図る。</li> <li>・学び合いを取り入れた授業にICTを活用しようとする教職員の割合を100%にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師招聘による校内研修の充実を図る。</li> <li>・電子黒板・タブレット型PCを中心にICTを有効に活用する指導法を研究する。</li> <li>・有効な活用方法、有効な教材作成など情報交換をしながら蓄積していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が、ICTを活用した学び合い学習の研究授業を行うことができた。</li> <li>・小城市学力向上研究発表会を盛会の中に終えることができた。</li> <li>・児童に取ったアンケート結果を見ても、ICT利活用が、関心・意欲面だけでなく、理解の補助としても効果的であるとの回答を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小城市学力向上研究発表会に向けた取り組みの中で、学び合い学習の中に、計画的にICTの利活用を位置付けた学習展開が普及してきた。</li> <li>・教師はもちろん、児童もICT機器利用に係るスキルがアップし、これまでは困難にとらえられていた内容も、進んで取り組んだ実践事例の蓄積を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器のトラブルによって思うような授業展開ができないこともあり、サポート体制の更なる充実が必要である。</li> <li>・機器操作に集中して、授業に集中できないという状況を打開すべく、これからも実践を重ねていく必要がある。</li> <li>・ICTはツールであるとの自覚を持ち、日々の教材研究を密に行う中で、さらに効果的な活用のあり方を探る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>①これからの課題はICT活用による教育の質の向上による学力の向上では。</li> <li>②小城市の発表校が岩松小で実施されたことで、現時点において研究成果と課題等が見えていると思います。さらなる継続を</li> </ul>
	○ 読書活動	読書活動の推進ができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館と連携し、児童一人当たりの貸出数を150冊以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書ボランティアの読み聞かせの実施。</li> <li>・魅力ある図書館にするためのイベントなどを工夫する。</li> <li>・読書リレーの実施。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートの「読書活動を推進する取り組みを行っていると思うか」では、「思う・だいたい思う」の割合が、昨年度より、増えた。</li> <li>・年間の貸し出し数は、1月の時点で、一人当たりの累計が、平均146.75冊である。目標の150冊には、到達できそうである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べると、1月の時点で、累計前年対比 100.9%であり、貸し出し数は、増えている。</li> <li>・ひまわりチケット(プラス1冊)やはなきんチケット(プラス2冊)などを使うことで、貸し出し数が伸びていると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館祭りには、高学年より、低学年の参加が多い。隙間時間に、図書館を利用する声かけをしていくなど、図書の時間以外でも、貸し出しを増やす手立てをとっていききたい。</li> <li>・図書の時間には読んだ本のあらすじや心に残った場面の紹介を100字程度で書く取り組みを行うことで、内容をじっくり読むことも意識させていきたい。</li> <li>・読書リレーを週末行うことを意識づけさせ、親子での読書活動をもう少し広めていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本に親しむ週間をつけることは一升の宝だと考えています。読書のすばらしさをご指導いただき感謝しています。</li> <li>②親子での読書活動はぜひ広めていただきたい。</li> <li>③貸し出し数だけでなく、必ず読み、内容を把握させることができたら大変良いと思います。</li> <li>④いろいろな本に興味・関心が持っているのか？内容は？</li> </ul>

③ 豊かな心と健やかな体の育成							評価委員の 評価 (A～Dで記入)	意見や提言など		
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)			具体的な改善策・向上策	
教育活動	●心の教育1	学ぶ喜びがあり、認め合い支え合う学級・学校づくりができたか。	・学校が楽しいと感じる子どもの割合を95%以上にする。	・児童に出番や役割を与え承認していく機会を増やすことで、自己肯定感を高めながら支持的風土を醸成していく。 ・「さん」「くん」を付けて名前を呼んだり呼ばせたり、「ぼかぼか言葉」を積極的に使わせたりすることで、言葉遣いを整えていく。 ・QUテストを活用した学級経営。 ・あいさつ運動の展開。	C	・保護者アンケートで「子供が学校が楽しいと感じている」の割合が89% ・QUテストの結果、学級生活満足群に全校児童の31%が入る結果となる。	・毎月のアンケートや人権教室などの実施で、知識としての人権意識や言葉遣いの善し悪しは身につけているようである。 ・毎週水曜日の早朝に学年単位でのあいさつ運動を実施でき、児童の出席率も良かった。	「さん」「くん」をつけて名前を呼ぶことや「ぼかぼか言葉」を使うことの定着を図る取り組みをする以前に、学習規律や生活規律の再徹底を重点的に行った。全職員が同じ基準をもって児童の指導にあたっていくことで改善を図っていきたい。良い取り組みをした児童を賞賛したりする場や、良い取り組みの例を提示することで、身につけさせたい。言葉遣いや規律などを定着させ、継続させるために、粘り強く継続的に取り組んでいきたい。	B	①岩松小学校生のあいさつはすばらしいと思います。心が豊かになります。 あいさつを交わすところが相手を認め合う第一歩だと思います。 ②H28年度の「思う」が10%も減少したのと反対に「あまり思わない」が10%あるのは残念だ。 ③あいさつはコミュニケーションの第1歩だと思うので続けていたいただきたい。
	●心の教育2	自問清掃の取組を通して、児童の変容はみられたか。	・自問清掃を頑張っていると感じている児童の割合を85%以上とする。	・校内に自問掃除の掲示コーナーを設け、児童の掃除の様子を掲示し掃除に対する啓発を図り、自発性や自立心を図る。 ・がまん日記を書かせ、それを基に指導を続け定着させていく。	A	自問清掃については、86%の児童が児童の成長に役立っていると感じているようだ。	・自問清掃に対する意識を持つことで、毎日の掃除の取り組みがよくなり進んで掃除をする姿勢が身につけてきた。また、掃除の後「がまん掃除日記」を書くことで反省と掃除の徹底を行うことができた。また、自己反省につながった。がまん日記を継続することで次の日の意欲に繋げることができた。	学期が進むにつれて落ちて自問清掃ができてきた。担任不在の時でも自主的に自問清掃ができるようにしたい。今後も継続することで自分で考えて行動できる児童をめざしていきたい。がまん日記については、毎日点検が必要なので、その時間確保が課題である。	A	①86%の児童が成長に役立っていると感じていることは成果だと思う。 ②自問清掃たいへん良いことです。子どもたちの自律心向上に良いと思います。 ③自問清掃を通じて児童の自発性または、自律心などの心の成長に良いと思いますので、ぜひ継続してほしいです。
	●心の教育3	全教科、全領域での道徳教育の推進	・子どもたちが楽しく(意欲を持って)学校生活を送っていると感じる保護者の割合を90%以上にする。 ・学校が楽しいと感じる子どもの割合を90%以上にする。	・別業を含む年間計画を見直し、全教科・全領域での道徳教育の推進を進め、道徳的実践力の育成を図っていく。 ・「ふれあい道徳」(参観日での道徳の授業公開)の充実 ・「わたしたちの道徳」の活用	B	現時点で、別業については年度末にむけて進行中。道徳の授業参観も見直しを持って実施することができている。アンケートの結果は保護者・児童ともに87%で目標をやや下回っていた。	別業については、道徳の年間計画での内容の見直しにも反映してくるので、来年度にむけての見直しができると思われる。今年度は、新内容項目での学習内容(文科省・県版・その他)の計画の見直しと他教科との関連を意識して効果あるもの加除修正を行うことができる予定である。教育週間にむけての情報収集(QU・いじめアンケートの活用)や個人懇談が計画的に進めることができた。	ふれあい道徳は、まだ参観の域を超えない授業構成なので、来年度は「参観」から「参加」型の実践で、ふれあい道徳を実施していかなければならない。	B	①心の教育はむずかしいと思う。ただ道徳教育は今の世の中の状況ではとても大事ではなからうか。 ②いじめ問題等はないときいているので、よいと思う。
	○特別活動	児童会活動の充実	児童会集会活動や代表委員会、委員会活動において、一人ひとりに出番、役割を分担し、進んで取り組むことができるようにする。	児童会集会活動や代表委員会、委員会活動で、児童(学級集団)が自主的に出番を作り、活動する機会を保障する。	B	学校評価アンケートにおいて、委員会や係活動などで、自分の役割を果たしていると感じている児童は83.6%(3年生以上)であった。昨年度と比較して低下している。	・すこやかタイムでは、全委員会の委員会発表を計画的に行うことができた。発表の内容も工夫され、一人ひとりが自分の役割を果たした。 ・児童会目標への取り組みについては、代表委員会で話し合った決定事項に基づいて進めた。よくできている学年を放送することで意識の高まりも見られた。 ・わんぱくタイムでは、上級生が下級生のお世話をよくしていた。 ・1年生を迎える会、運動会など学校行事では、出番、役割を果たしながら取り組んだ。	・学級活動や学校行事で、一人ひとりが主体的に取り組むことができるように、目標を持たせ、振り返りをさせる。 ・学級活動や学校行事などで、お互いに認め合えるような取り組みを行い、自己肯定感を持たせる。	B	



○特別支援教育	特別支援教育体制の確立と充実ができたか。	・校内支援委員会等を通して、対象児童の共通理解を図り、よりよい支援体制づくりをめざす。	・校内委員会を設置し、状況に応じた校内支援体制をつくり、対象児童への支援を行う。 ・特別に支援が必要な児童の支援に関する校内研修を実施するとともに、対象児童の個別の指導計画を確実に作成する。	B	・支援を要する児童や学級について、その都度話し合いを持つことで状況は改善しつつある。 ・学校全体で支援の状況を共有できているかという点も多忙中把握できていないところもある。	・配慮を要する児童については、気になることや問題が発生する時期が決まっているわけではないので、その都度なるべく早めに対応することを心がけた。児童に応じて、保健室やもも組などのその児童の居場所作りも考えた。 ・全校の中で配慮を要する児童はたくさんいるが、給食などの時間を使って各クラスを回り様子を見るようにしてきた。	・月一回の生徒指導会の中で、生活のことと別枠でクラス全体のことや、気になる児童のことなどについて、知る機会は昨年度より増えてきたが、それを改善するとすると、全職員の協力体制がもっと必要なのではないかと思う。 ・学校生活の安全が損なわれるような危険度が高いと思われる児童や困り感が強い児童などについては、保護者にも現状を知らせ理解を求めて早急に対応に当たらないといけな	B	
●健康・体づくり ①	規則正しい生活習慣の推進と健康な体作りができたか。	・十分な睡眠時間の確保と、朝食を毎日食べる児童の割合を90%以上にする。	・「岩松っ子カード」により、規則正しい生活習慣の実態把握をし、適宜養護教諭、栄養教諭を中心に規則正しい生活習慣や食育に関する指導を推進する。 ・集計結果等をお便りとして発行し、家庭との連携を図る。	B	2回行った生活習慣調査の結果、2回とも朝食喫食状況は目標の90%以上を達成することができた。また睡眠に関して、就寝時間は保護者へのお便りや委員会を活用した児童への呼びかけにより、1学期よりも1割以上改善したが、逆に決められた起床時間に起きられない児童がは1割ほど増加したため。	生活習慣調査を年間2回実施し、児童の実態把握ができた。その結果を保護者にお便りでお知らせし、児童玄関にも関連記事を掲示していただいたことで、家庭との連携につながったと考えた。実際に、保護者の方から「子どもの生活習慣を振り返った」という声もあった。	高学年に上がるにつれ睡眠時間の確保ができていないので、起床時間とのバランスを取りながら、発達段階に応じた保健・食育指導を養護教諭と栄養教諭で連携し実施していきたい。また、家庭との連携をより充実させるため、お便りの発行回数を増やしたり、フリー参観などで直接、保護者へ働きかけたりする場を設定したい。	B	①校内で統一的行動を守れても、各家庭では事情が異なっていて、不明なことも多いと思います。よろしくご指導ください。 ②家庭が基本であり、児童へはもちろん保護者へのねばり強い啓発が必要。 ③家庭でも早寝早起きを子どもには言っているが、親ができていなく反省しています。 ④家庭での生活習慣には、保護者の協力が不可欠というよりも保護者が主とならなければいけない。保護者への啓発活動の充実が必要だと思う。
●健康・体づくり ②	健康な体作りができたか。	全児童の体力向上を図る。5月と比べて1月のシャトルランで5%の向上を図る。	・5月と1月に20mシャトルランを行う。 ・朝や業間の時間を使い、ラジオ体操やなわとび週間、マラソン週間を実施する。 ・3学期にマラソン大会を行う。	B	休み時間を使ってのシャトルランによる体力向上を図った。参加児童も楽しくシャトルランに複数回とり組んでいた。	屋休みの外遊びや、運動器具を使っての遊びなどにとり組むような主体性の持たせ方に工夫が必要。	数値的に向上が見られたが、新年度の体力テストの結果を待たないと、取り組みの成果なのかがはっきりしないので、新年度は体力向上プログラムを組んで年間を通してとり組んでいきたい。	B	
●いじめ問題への対応	いじめのない学級づくりと教育相談体制の確立ができたか。	・いじめの芽を摘み、早期発見、早期対応で、児童一人一人の居場所作りをする。自己肯定感を高める。	・「いじめゼロ宣言」に基づく取り組みを各学級で実践する。 ・毎月の教育相談会でのいじめに関する共通理解を図り、いじめ相談やいじめに関する指導を行う。 ・いじめについてのアンケートを、学期1回行い、いじめの芽を小さいうちに摘む。	C	保護者アンケートで、「いじめ防止について成果が出ていると思うか」の項目で、「思う」が昨年度より増えて21%あるものの、「あまり思わない」が22%、「思わない」が2%で、合わせて4分の1が「あまりできていない」との回答だった。児童の様子を見ていると、効果が出ていると言えな状況も多々ある。	・SCの活用を計画的に行い、個別相談で心の安定が図られている児童が多数いる。不登校対応も級外の先生SCを中心に保護者の相談の要望にもすぐに対応でき、早めの対応が児童の早期解決につながった。	・各学級でいじめの芽を小さいうちにつんでいく。 ・全校で一貫して、徹底的にことばの暴力や無視、いやがらせなどを許さない態勢を作る。 ・いじめ0宣言をもっと有効的に生かす方法を考える。	B	①岩松小学校では、前向きな体制がとられていると思います。いじめゼロ作戦に 期待しています ②最近、全国的にまた報道が目立つようだが、このいじめは早期発見と隠蔽しないことが重要。アンケートの23%にも少し驚いた。 ③保護者の横のつながりをもう少し密にすれば。 ④子どもたちどうしでの話し合う時間を作れないだろうか。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

①保護者アンケートに関しては、思う・大体思うをあわせるとほとんどの項目で80%を超えていることから学校への理解が得られていると考えられるが、昨年よりは若干評価が下がっている項目が見られる。  
②昨年数字が低かったものでは、5:たしかな学力、8:読書活動、10:自問清掃、11:健康教育、13:いじめ防止であったが、その中で今年度改善したと思われるのは8:読書活動である。読書は平均で150冊以上の貸し出しをしていることなどある程度の成果がみられた。  
③確かな学力と家庭での学習習慣が数字が下がっているのは来年度に向けての大きな課題と思われる。  
④自由記述にあるように、学校の取り組みがそのまま効果に結びついていないように感じている保護者があり、目的と成果をはっきり評価しながら学校の取り組みを推進していきたい。  
⑤次年度への課題としては、安心安全な学校・学級づくりを土台に学力向上につなげていくとともに、体力づくり等も継続してとりこんでいきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目